

中非持三遺跡

長野県上伊那郡長谷村大字非持

県営圃場整備事業中非持地区工事に伴う
埋蔵文化財緊急発掘報告書

中非持三遺跡 県営圃場整備事業中非持地区工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘報告書

2002年

長野県上伊那地方事務所
長谷村教育委員会

2002年

長野県上伊那地方事務所
長谷村教育委員会

中非持三遺跡

長野県上伊那郡長谷村大字非持

県営圃場整備事業中非持地区工事に伴う
埋蔵文化財緊急発掘報告書

2002年

長野県上伊那地方事務所
長谷村教育委員会

発刊にあたって

本報告書は県営圃場整備事業に伴う緊急発掘の調査をまとめたもので、調査は平成13年10月の初めから11月の終わりまでの2ヶ月間といった、比較的に短期間のものであります。

今回の調査箇所は、調査経過にも記述されている通り、湧水に悩まされるような場所であり、また以前に水田圃場にするための土地改良工事により消滅していたりしており、残念ながら詳細な全容をつかむことはできませんでしたが、数は少ないが遺物、遺構も発見でき古代人の生活の跡が確認されそれなりの収穫があり、有意義であったと思います。

今回の調査にあたり、快く調査の実施に御協力いただいた土地所有者の方々、発掘団長として指導に当たっていただいた（故）友野良一先生、指導員としてまた最後のまとめまでお世話になった太田保先生はじめ、意欲的に発掘作業に御協力いただいた作業員の方々に心から感謝申し上げるとともに、本報告書が今後の研究活動に活用されることを願い発刊の言葉とします。

平成14年3月

長谷村教育委員会
教育長 伊東耕平

例　　言

1. 報告書は、平成13年度実施した県営圃場整備事業中非持地区整備事業に伴う、埋蔵文化財緊急発掘調査報告書である。
2. この緊急発掘調査は、長谷村役場の委託により長谷村教育委員会が実施した。
3. 本報告書は、短期間にまとめるよう要求されているため、調査によって検出された遺構、遺物はより多く図示、図版化することに重点を置き、資料の再検討は後日の機会に譲ることとした。
4. 第3章第2節以降の遺物分布については、下記のとおり図示した。
凡例 ●土器 ■土師器 ▲石器 ○須恵器 □灰釉
△黒曜石 ×鉄器 ★その他
5. 本報告書の執筆者及び図版制作者は次のとおりである。
本文執筆者 太田 保、松島信幸、寺平 宏、中山善郎
図版制作者 太田 保、春日美佐子、松本ひろみ
写真撮影 中山善郎、小松 勝
6. 本報告書の編集は主として長谷村教育委員会が行った。
7. 遺物及び実測図類は長谷村教育委員会が保管している。

目 次

発刊にあたって

例 言

目 次

| | |
|---------------------------|----|
| 第 1 章 発掘調査の経緯 ······ | 1 |
| 第 1 節 発掘調査に至るまでの経緯 ······ | 1 |
| 第 2 節 調査会の組織 ······ | 1 |
| 第 3 節 発掘調査の経過 ······ | 1 |
| 第 2 章 遺跡の環境 ······ | 3 |
| 第 1 節 遺跡の位置 ······ | 3 |
| 第 2 節 地層及び地質 ······ | 6 |
| 第 3 節 歴史的環境 ······ | 14 |
| 第 3 章 遺構と遺物 ······ | 15 |
| 第 1 節 調査の概要 ······ | 15 |
| 第 2 節 中非持遺跡 ······ | 15 |
| 第 3 節 堀外田遺跡 ······ | 19 |
| 第 4 節 神明塚遺跡 ······ | 21 |
| まとめ (参考文献合) ······ | 22 |
| 遺物一覧表 ······ | 23 |
| 写真図版 ······ | 27 |
| 報告書抄録 ······ | 39 |

挿 図 目 次

| | |
|---|----|
| 第 1 図 中非持三遺跡の位置 ······ | 3 |
| 第 2 図 中非持三遺跡の周辺の遺跡分布図 ······ | 4 |
| 第 3 図 中非持地区地形分類図及び遺跡位置図 ······ | 6 |
| 第 4 図 中非持遺跡調査地点の地質柱状図 ······ | 7 |
| 第 5 図 N面御岳スコリアを切る剪断面 ······ | 9 |
| 第 6 図 W1面とE1面の展開図 ······ | 11 |
| 第 7 図 南側壁面 (S面) スケッチ図 ······ | 12 |
| 第 8 図 長谷村の中央構造線 ······ | 13 |
| 第 9 図 中非持遺跡トレンチ図 ······ | 16 |
| 第10図 中非持遺跡拡張箇所遺物分布図及び地層断面図 ······ | 17 |
| 第11図 堀外田遺跡トレンチ図 ······ | 19 |
| 第12図 第1号土坑、第2号土坑、第4号土坑実測図及び遺物位置図 ······ | 20 |
| 第13図 神明塚遺跡トレンチ位置図 ······ | 21 |

| | | |
|-----|-----------------------|----|
| 表 1 | 長谷村内遺跡一覧表 | 5 |
| 表 2 | 中非持遺跡調査地点の砂粒分析表 | 8 |
| 表 3 | 垣外田遺跡のテフラ分析表 | 10 |

図 版 目 次

| | | |
|------|---------------------------|----|
| 図版1 | 上 垣外田遺跡 第1号土坑 | 29 |
| | 下 垣外田遺跡 第2号土坑 | |
| 図版2 | 上 垣外田遺跡 第3号土坑 | 30 |
| | 下 垣外田遺跡 第4号土坑 | |
| 図版3 | 上 中非持遺跡拡張箇所遺物-1 | 31 |
| | 下 中非持遺跡拡張箇所遺物-2 | |
| 図版4 | 上 垣外田遺跡遺物 | 32 |
| | 下 神明塚遺跡遺物 | |
| 図版5 | 上 垣外田遺跡神明塚遺跡遺物 | 33 |
| | 中 中非持遺跡近景 | |
| | 下 中非持遺跡出土状況 | |
| 図版6 | 上 垣外田遺跡近景 | 34 |
| | 中 垣外田遺跡試掘トレンチ | |
| | 下左 垣外田遺跡発掘状況 | |
| | 下右 垣外田遺跡出土状況 | |
| 図版7 | 上 神明塚遺跡発掘状況 1 | 35 |
| | 下 神明塚遺跡発掘状況 2 | |
| 図版8 | 中非持遺跡調査地点の地質断面 | 36 |
| 図版9 | 左 N面と試料採取の位置と番号 | 37 |
| | 右 E1面のPm1先端部の拡大写真 | |
| 図版10 | 左 W2面のテフラの変状と試料採取位置 | 38 |
| | 右 E2面のテフラの変状と試料採取位置 | |

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至るまでの経緯

県営圃場整備事業中非持地区の遺跡の調査は、同圃場整備事業地区内に埋蔵文化財包蔵箇所があるので、事業実施に先立ち、試掘調査を行い必要であれば本格的な発掘調査を行い記録保存する必要が生じた。

中非持地区三遺跡に関して、平成13年8月20日、上伊那地方事務所長と長谷村長との間で埋蔵文化財発掘事業委託契約書を締結、同日中非持地区三遺跡発掘調査団を結成し、発掘作業を遂行することになった。調査団は友野良一団長以下11名で構成された。10月4日午後、教育長、発掘調査団長、作業員等が現地に参集して、安全祈願を行い、10月11日より中非持遺跡の発掘調査開始。10月26日より垣外田遺跡の発掘調査開始。11月26日より神明塚遺跡の発掘調査開始。

第2節 調査会の組織

長谷村教育委員会

| | |
|--------|---------|
| 教育委員長 | 中山 汎 國 |
| 同職務代理 | 渋谷 市 郎 |
| 教育委員 | 伊藤 文 雄 |
| 教育長 | 宮下 公 平 |
| 教育次長 | 伊東 耕 平 |
| 生涯学習係長 | 池上 直 彦 |
| 生涯学習係 | 黒河内 浩 人 |
| 同 係 | 小松 勝 |

下ノ中原遺跡発掘調査団

| | |
|-----|---------------------|
| 団長 | (故)友野良一 (日本考古学協会委員) |
| 副団長 | 中山善郎 (長谷村文化財専門委員長) |
| 調査員 | 松島信幸 (第四紀学会員) |
| | 寺平 宏 (第四紀学会員) |
| | 太田 保 (長野県考古学会員) |

第3節 発掘調査の経過

発掘日誌

2001年

- 10月4日 午後より友野良一団長以下17名により安全祈願を挙行。団長より発掘作業に関する指示を受け、発掘道具の運び込みと、発掘道具を収納するテントの設営をする。
- 10月11日 発掘作業を開始。D-3付近よりトレンチ法による試掘を開始。第2トレンチのC-3とC-4メッシュの中間当たりから遺物が数点出土。第3、4トレンチを開け、第5トレンチを途中まで開ける。トレンチを開けて場所から湧水見られた。
- 10月12日 第5トレンチ中案より発掘を開始、その後第6、7、8トレンチを開ける。湧水が多くトレンチが水没してしまう可能性があるので第1~5トレンチまでの断面を測量及び遺物の高さの測量。
- 10月15日 第9、10、11トレンチを開ける。他のトレンチ同様湧水が多いので第6~8トレンチまでの断面を測量及び遺物の高さの測量。
- 10月23日 太田保氏を指導員に向かえ、第2トレンチ付近を拡張することにする。それに伴いトレンチ内に貯まつた水抜をする。
- 10月24日 第2トレンチ北側付近を拡張、遺構とは判別できないものの遺物が20数点出土。遺物の出土状況を記録保存するため断面を残してその箇所を測量及び写真撮影。
- 10月25日 昨日に引き続き第2トレンチ付近の拡張箇所を詳細に調査遺物位置及び高さを測量。同

- 時に松島先生、寺平先生により地層地質調査を行う。
- 10月26日 調査のため残していた断層を廻して、最後に残った遺物を取り上げる。その後埋め戻しをしてこの箇所での発掘を終了。
- 10月29日 発掘道具を中井持遺跡から運び込み終了後、F-2付近よりトレンチ調査開始。第1、2トレンチを開ける。第1トレンチ南側より土壌らしきものが3つ出土。
- 10月30日 第3、4、5トレンチを開ける第1、2トレンチに発見された土壌らしきものの近辺にさらに1つ土壌らしきものが出土したので、周辺を清掃後記録保存の為写真撮影と測量を実施。
- 10月31日 午前中第6トレンチを開ける。第4、5トレンチの断面を測量。遺物遺構が殆ど見当たらぬいたため発掘作業終了。
- 11月7日 松島先生、寺平先生が来村して、地層地質調査を行う。この遺跡が中央構造線付近にあり、また地層が動いた形跡があるため詳細な調査を13日までかけて実施。
- 11月26日 発掘道具の運び込みをして、G-1付近よりトレンチ調査開始。第1トレンチには遺物等は特に発見されなかった。しかし地層を調べるために第1トレンチに直角にトレンチを南側から3箇所を入れる。
- 11月27日 前日に入れたトレンチの断面図を測量して、埋め戻しをして、発掘作業の全日程を終了。

『発掘調査に参加していただいた方々（順不同・敬称略）』

池上明博 伊東栄人 伊東好一 宮下彦二 小松正人 中山源一 中山喜与子
倉田栄子 中山絢佐子 松本ひろみ 春日美佐子
㈱東部建設 ㈱峰コンサル

第2章 遺跡の環境

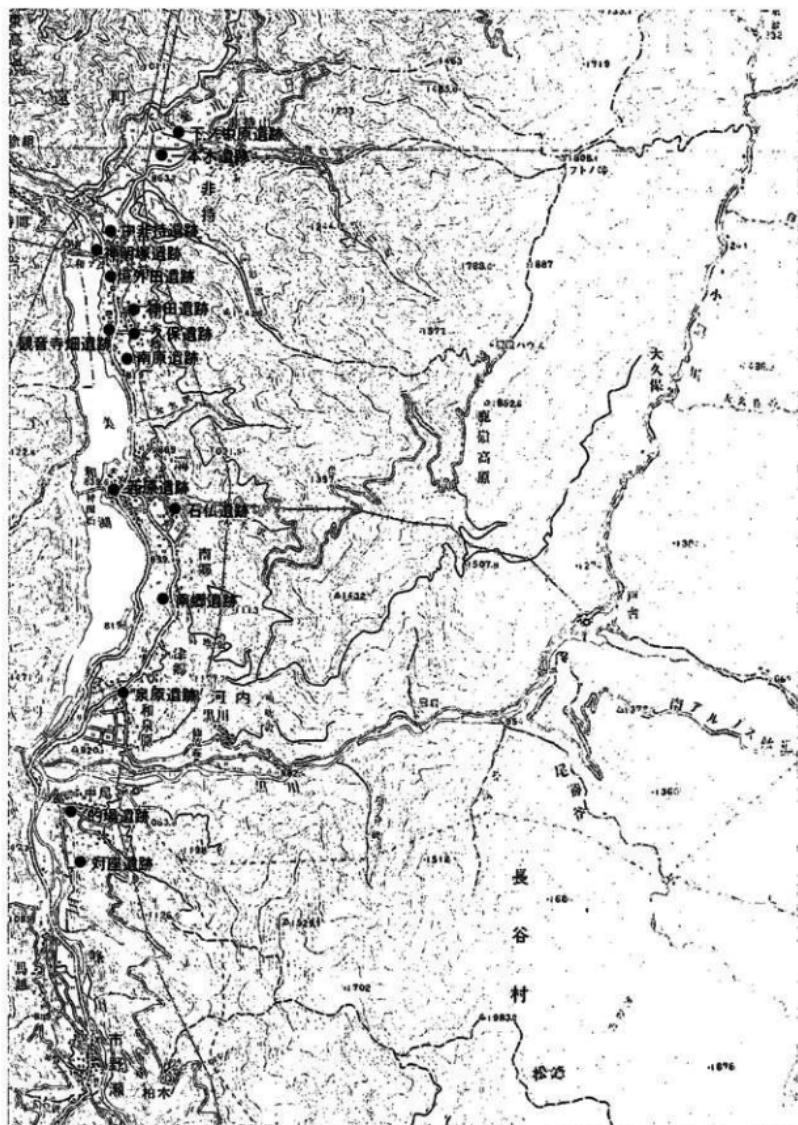
第1節 遺跡の位置

今回の発掘調査地である中非持地区三遺跡は長野県上伊那郡長谷村非持95-1番地外に所在する、地理的位置は、東経138度05分06秒、北緯35度48分41秒付近に散在している。これら三遺跡はJR伊那市駅から国道361号線で高遠町に至り、更に152号線を南へ約2kmの地点にある遺跡である。また、中央東線茅野駅から杖突街道（国道152号線）にて至ることもできる。

これら三遺跡は美和湖畔の段丘中央部から縁部にかけて点在している。標高は813m内外である。



第1図 中非持三遺跡の位置



第2図 中非持三遺跡と周辺の遺跡分布図

表1 長谷村内遺跡一覧表

| 種別 | 時代 | 名 称 | 所在地 | 地 目 | 発掘歴 | 有無 |
|-----------|------------------------|--------|-----|------|-----------------------|----|
| 散布地 | 古墳・奈良・平安・中世・近世 | 荒神沢遺跡 | 非持山 | 山麓 | | |
| 散布地 | 縄文中期・古墳・平安・中世・近世 | 狐塚遺跡 | 非持山 | 段丘斜面 | | |
| 集落跡 | 縄文中期・平安・中世・近世 | 一本木遺跡 | 非持山 | 扇央 | 住居址:縄文2軒・平安4軒 | 有 |
| 散布地 | 縄文中期・後期・平安・中世・近世 | 中原遺跡 | 非持山 | 扇頂 | | |
| 集落跡 | 縄文中期・後期・平安・中世・近世 | 下ノ中原遺跡 | 非持山 | 扇央 | 土壙:12基 | 有 |
| 散布地 | 縄文中期・後期・古墳・奈良・平安・中世・近世 | 中非持遺跡 | 中非持 | 段丘中央 | 遺構:無し | 有 |
| 散布地 | 縄文中期・後期・平安・近世 | 垣外田遺跡 | 中非持 | 段丘中央 | 土壙:5基 | 有 |
| 散布地 | 縄文中期・奈良・平安 | 神明塚遺跡 | 中非持 | 段丘縁部 | 遺構:無し | 有 |
| 散布地 | 縄文中期・後期・平安・中世・近世 | 神田遺跡 | 中非持 | 扇央 | | |
| 散布地 | 縄文中期・後期・平安・中世・近世 | 觀音寺畠遺跡 | 非持 | 扇央 | | |
| 散布地 | 縄文中期・後期・平安・中世・近世 | 久保遺跡 | 南非持 | 扇央 | | |
| 集落跡 | 縄文中期・後期・弥生・平安・中世・近世 | 南原遺跡 | 南非持 | 段丘斜面 | 住居址:縄文中期12軒・弥生1軒・平安2軒 | 有 |
| 散布地 | 縄文中期・中世・近世 | 西原遺跡 | 溝口 | 段丘中央 | | |
| 集落跡 | 縄文中期 | 石仏遺跡 | 溝口 | 段丘 | 住居址:縄文中期7軒 | 有 |
| 集落跡 | 縄文中期・中世・近世 | 南郷遺跡 | 溝口 | 段丘中央 | 住居址:縄文中期1軒・平安8軒 | 有 |
| 集落跡 城址 | 縄文中期・後期・弥生(前、後期)・奈良・平安 | 泉原遺跡 | 黒河内 | 扇央 | 住居址:縄文中期23軒・後期4軒・平安4軒 | 有 |
| 散布地 | 中世・近世 | 和泉原遺跡 | 黒河内 | 段丘中央 | | |
| 散布地 | 縄文中期・後期 | 的場遺跡 | 中尾 | 段丘中央 | | |
| 散布地 | 縄文中期・後期・平安・近世 | 対座遺跡 | 中尾 | 段丘中央 | | |
| 散布地 | 縄文中期・後期・平安・近世 | 市野瀬遺跡 | 市野瀬 | 扇央 | | |
| 散布地 | 縄文中期・後期・平安・中世・近世 | 熊ノ森遺跡 | 市野瀬 | 段丘斜面 | | |
| 散布地 | 旧石器・縄文 | 入笠山南遺跡 | 黒河内 | 山麓 | | |

第2節 地形及び地質

1 中非持遺跡の地形地質

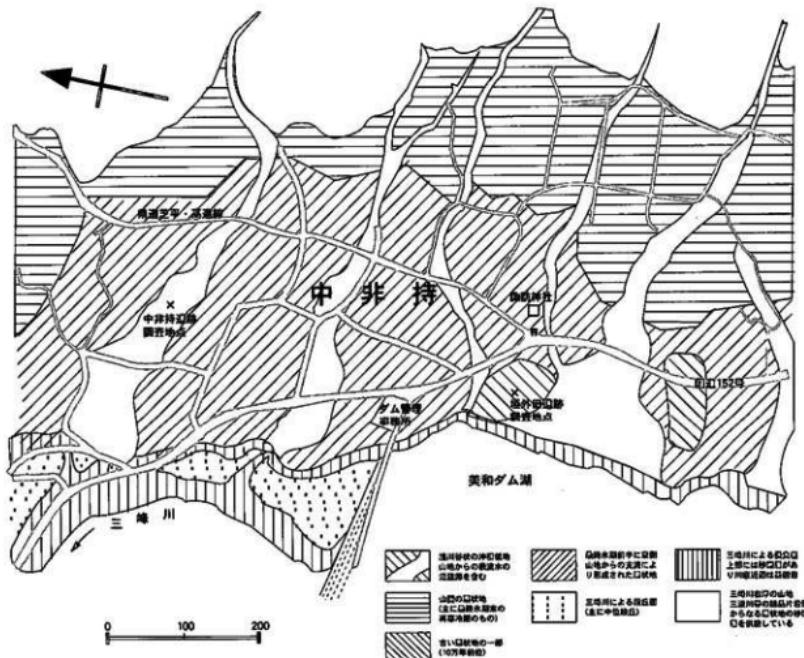
はじめに

本調査は長谷村教育委員会の依頼で平成13年（2001年）10月25日に行った。長谷村中非持の中非持遺跡に伴う地形地質調査である。

（1）調査地の地形

調査地点は中非持の最北部にある御社口と呼ばれている地籍である。柄洞という浅い谷間になっていて、水田として利用されてきた場所である。柄洞の谷は県道芝平・高遠線の上の山地から流れ下っている小溪流で、県道下から緩い勾配になり、谷幅が広くなる。調査地点の御社口付近では50m～80mの底の平らな浅い谷になる。しかし、圃場整備によって人工的に平坦な地形になっていると思う。調査地点から200mほど下ると三峰川に面した急崖となり、谷状の低地は消滅する（第3図）。

調査地点付近の東側の外帯山地から流れ下っている数個の小溪流が山麓直下に砂礫を埋積してできている合流扇状地である。調査地点の右岸側は崖錐性の表土に覆われた斜面である。この斜面は第3図の北側（左端）にある高い扇状地と中非持集落の扇状地との境界部分を柄洞が侵食していくときにできた斜面である。



第3図 中非持地区地形分類図及び遺跡位置図

(2) 遺跡の地質

調査地点の地質断面を示す図版8とその地質柱状図(第4図)、及び表2に砂及び鉱物の分析結果を示す。

表層の30cmは水田耕土等の人工地盤である。これが試料番号の①②である。試料番号の③～⑩(深さ30cm～2m)までは御社口の谷状低地を埋めている沖積層である。しかし、③④⑤は古い水田の耕作土を含む人工地盤かも知れない。③は酸化帶で、その下の④⑤は暗褐色土で角礫を含む砂・粘土で、⑥の下の暗色部には有機物が含まれている。現地での聞き込みでは昔の圃場整備があったか不明だった。

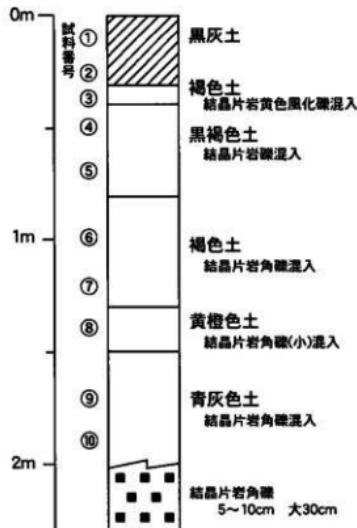
調査地点では③④⑤を含んで堆積層は3枚の地層に分かれる。③～⑤の50cmが上部層、⑥⑦⑧の60cmが中部層、⑨⑩の50cmが下部層である。何れの地層も最上部が黄褐色を示す。地層堆積後の休止期間と、その間の酸化作用を示す。

⑥⑦⑧の中部層は少し茶色っぽい暗褐色土で角礫が混入する。礫種はすべて結晶片岩類である。下側の⑨の部分には円礫が入る。この地点の地層断面中に円礫が入ってくるのはこの層準だけである。礫種は緑色岩・石英片岩・ダンカンラン岩が識別できたが、どれも三波川・御荷鉢帯の硬い岩石である。最大の礫は径20cmの緑色岩である。三峰川から供給されたかどうかは不明である。

⑧の直下から⑨⑩が下位層である。⑨と⑩の間に粘土層がある。図版8の右側の褐色に風化している部分である。厚いところは20cmとなる。この粘土層が不透水層になっていて地下水の湧き出しが多いため⑨より下への掘削はできていなかった。⑨⑩は角礫混じりの粘土層の地層で青色になっている部分と、酸化して茶色になっている部分がある。

表2に示す粘土・砂・小礫・火山起源の鉱物・広域テフラなどの構成を示す。角礫混じりの粘土質の部分は洪水や土石流によって堆積した地層である。円礫の部分は段丘堆積と考える。火山ガラスは広域テフラの始良Tn火山灰(ATと記す)を微量に含んであるが、地層の産状から見て、ATは再堆積性である。だから、この谷を埋めている2m余の地層はATの降下年代(2万5千年～2万8千年前)よりずっと新しい地層である。火山起源鉱物は御嶽起源の鉱物も再堆積性である。

堆積物中の岩石はすべて東側山地からの結晶片岩や緑色岩の角礫である。これらの堆積物は山麓部の扇状地や扇状地直上の山地から供給されている。下部層になると地下水位面に達しており、青灰色の還元色を示し、地下水が湧き出てくる。深さ2mの⑩より下は扇状地砂礫層である。礫種はすべて結晶片岩礫で5cm～10cm大、一個だけ30cm大の結晶片岩礫が見られた。



第4図 中非持遺跡調査地点の地質柱状図

表2 中非持遺跡調査地点の砂粒分析表

| 採集地点 | 産状 | 斑晶量 | 重鉱物斑晶 | その他鉱物岩片等 | 火山ガラスの量 | 火山ガラスの形態 | 特徴・同定その他 |
|---------|---------------|-----|-----------|---------------------|---------|----------|-------------------------------|
| 1 10cm | 黒褐色土 | ++ | opx,mt,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | + | bw | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 2 25cm | 黒褐色土 | ++ | opx,mt,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | + | bw | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 3 35cm | 褐色土, 磷泥入 | + | opx,mt | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | | | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 4 50cm | 黒褐色土, 角礫混入 | + | mt,opx,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | + | bw,pm | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 5 70cm | 黒褐色土, 角礫混入 | + | opx,mt,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | + | bw | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 6 100cm | 褐色土, 角礫多い | + | opx,mt,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | + | bw | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 7 120cm | 褐色土, 角礫多い | + | opx,mt,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | + | bw | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 8 140cm | 黄褐色土, 角礫(小)混入 | + | opx,mt,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | + | bw | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 9 170cm | 青灰色土, 角礫混入 | ++ | opx,mt,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt | | | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |
| 10 190m | 青灰色土, 角礫混入 | + | opx,mt,ho | 風化砂粒(結晶片岩),fl,qt,gl | + | bw | 風化砂粒(結晶片岩を主)>御岳テフラ・ATなどの二次堆積物 |

凡例

斑晶量 - 火山ガラス量 + : 1%以下 ++ : 1~10% +++ : 10~50% ++++ : 50~80% +++++ : 80%以上

鉱物名 opx : 新方輝石 mt : 錫鐵礦 ho : 角閃石 fl : 長石 qt : 石英 gl : 火山ガラス 火山ガラスの形態・色 bw : バブル型 pm : 棒柱型

2 中非持地区垣外田遺跡付近の中央構造線

はじめに

本調査は長谷村教育委員会の依頼で平成13年(2001年)の11月7日・9日・13日の3日間で行った調査である。調査は中非持の垣外田遺跡調査での地形地質調査である。表層のテフラを調べたところ、厚さ2.4mのテフラ層の全体が大きく動いていたため、その原因を探るためにトレーニングを掘削して調査した。原因は直近を通過している中央構造線が動いたときに発生した液状化現象であると見ている。

(1) 中非持垣外田遺跡の位置

長谷村は中央構造線を侵食して流れる三峰川の渓谷沿いに立地し、集落が南北に長く連なっている。中非持は村の北部に位置し、ここから三峰川が流路を北西に変換して伊那山脈を横切り、天竜川へと向かっている。下流の高遠町から長谷村へ向かうと、大明神で三峰川を渡って坂をあがり、中非持の諏訪神社前に出る。神社前の交差点に接した水田が垣外田遺跡の一部である。遺跡は神社と美和ダム湖との間に位置している(第3図)。

(2) 垣外田遺跡の表層地質

垣外田遺跡は圃場整備がされて広い水田になっている。遺跡調査のため、全面に渡って調査用トレーニングが掘られ、黒土が剥ぎ取られている。ほぼ中央部にテフラが露出している。一見して御嶽山のスコリア・軽石が見られる場所は限られる。中非持から南非持にかけては、殆どの場所で見られない。なぜ、比較的低いこの場所に御嶽のスコリア・軽石が現れているのか、これは垣外田遺跡の地質上の重要課題である。

塙外田遺跡の水田一帯は一面に御嶽のスコリア・軽石が出ていない。中央やや国道寄りに、南北方向に伸びた分布をしている。美和ダム湖側は深く掘り下げてみたがスコリアより上に重なるテフラ、一般に赤土と呼んでいるローム層のテフラが出てくるだけである。

最初に目に付くのが赤褐色のスコリアである。粒は軽石と同様であるが、鉄分が多いため酸化して真っ赤な色になっている。これは御嶽のスコリアの中で一番目立っている御岳三岳スコリア（以下MtSを記す）である。

また、橙色の軽石が出ていている。これも御嶽の軽石で、御岳伊那軽石（以下InPと記す）。スコリアと違って鉄分が少なく、酸化しても赤くならなくオレンジ色が特徴である。

さらに、黄色が目立つ黄褐色の軽石がある。一個づつの粒がソラマメくらい大きい。粒は三つの中で一番大きい。粒一個を近づけて見ると軽石特有のおがくずの様な纖維状組織が見える。黒っぽい鉱物や小さい岩片などが含まれている。これも御嶽の軽石で、御岳第1軽石（以下Pm1と記す）。Pm1は黄色から白に変化している。白くなった部分は軽石の粒が見えなくなり、やわやわの粘土になっている。軽石が粘土化してカオリンに変化しているためである。

上記3種類のテフラが見えているから、これらの産出状態を見るために重機を使って深さ3mに達するトレーナーを掘削した。最初に南北方向にトレーナーを掘り、その南端に東西方向のトレーナーを掘削した。トレーナーは真上から見るとTの字になる（第6図の凡例参照）。

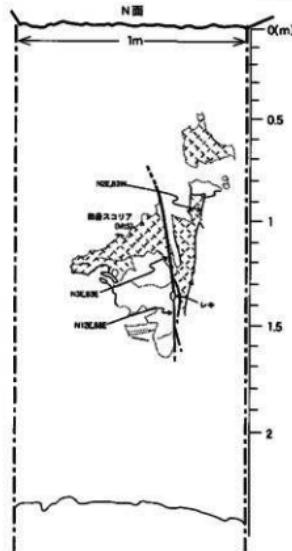
（3）トレーナー内壁面の観察

トレーナーの掘削で最初に現れたのがN面（北側の壁面）である。図版9にその状況を示す。一見して礫層より上部に重なる厚さ2.4mのテフラ層全体が激しく擾乱している様子が現れた。

I N面（北側壁面）のテフラの観察結果

最初にテフラの識別を図版9の試料採取地点の順番に従って記す（表3参照）。

- ① 赤褐色スコリアは御岳三岳スコリア（MtS）である。壁面内のMtSは完全に乱れており、不定形に切れ切れになり、大小様々に断片化している。
- ②・③ MtSの見かけ下位にあるこれらは御岳上部テフラで、正常な堆積だったならMtSの上に重なるテフラである。
- ④ 橙色の伊那軽石（InP）でMtSより軽度であるが上下放校にくねって不規則に分割している。
- ⑤ 御岳湯町軽石（KtP）でInPとPm1とに挟められ、引きちぎられるように乱れている。
- ⑥ 御岳第1軽石（Pm1）が下部にある本体からはぎ取られてのか、間に火山灰を挟んで不規則に分布している。
- ⑦ 灰褐色の火山灰土で、本来ならPm1の上に重なっている岩相である。
- ⑧ Pm1起源の白色粘土。粘土化している部分は不規則で、左側の黄色い部分は軽石の粒々が残っている。
- ⑨ 白色粘土化しているPm1でこの部分は下位の礫層の上に厚さ20cmくらいで連続している。層の上下は暗褐色の薄い粘土層で挟まれている。
- ⑩ 2.4mから下位は角礫層になる。角礫層の上部30cmは粘土質の基質で3~4cm大の結晶片岩の角礫である。
- ⑪ 下に続く角礫層の基質は砂で、上と同時に結晶片岩の角礫層である。⑪試料は砂の中の一部に粘土質の混入があり、鉱物組成は御岳上垂（Kmp）かもしれない。



第5図 N面御岳スコリアを切る剪断面

表3 堀外田遺跡のテフラ分析表

| 面 | 採取地點 | 産状 | 斑晶量 | 重鉱物斑晶 | その他の鉱物岩片等 | 火山ガラスの量 | 火山ガラスの形態 | 特徴・同定のその他 |
|----|------|---------------|-------|------------------|--------------------|---------|----------|---------------------------|
| N | 01 | 赤褐色スコリア | +++++ | cpx,cpx,mt | fl | | | 御岳山苗スコリア(MtS) |
| N | 02 | 褐色土 | ++++ | mt,opx,ho,ol | fl,火山岩片,結晶片岩岩片 | | | 御岳山下部テフラ>結晶片岩風化物 |
| N | 03 | 褐色土 | ++++ | mt,opx,cpx,ho,ol | fl,火山岩片,結晶片岩岩片 | | | 御岳山下部テフラ>結晶片岩風化物 |
| N | 04 | 褐色鉄石 | +++++ | opx,mt | fl | | | 御岳伊那鉄石(InP) |
| N | 05 | 灰褐色土 | ++ | mt,opx | 白～灰褐色火山岩片>(flob) | | | 御岳山下部テフラ(KtP) |
| N | 06 | 黄色鉄石 | ++ | mt,ho,bi | fl,g | +++ | pm | 御岳第1鉄石(On-Pm1) |
| N | 07 | 灰褐色土 | + | mt,ho | fl,火山岩片 | | | 御岳下部テフラ |
| N | 08 | 白色粘土 | ++ | mt,ho | fl | | | 御岳第1鉄石(On-Pm1)粘土化 |
| N | 09 | 白色粘土 | ++ | mt,ho | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳第1鉄石(On-Pm1)粘土化,結晶片岩風化物 |
| N | 10 | 礫層マトリックス | + | mt,opx | 結晶片岩岩片>fl | | | 結晶片岩風化物>テフラ? |
| N | 11 | 礫混じり粘土 | +++ | mt>cpx,ho,cpx | fl,結晶片岩岩片 | | | 結晶片岩風化物>御岳上垂穂石(KmP)? |
| E1 | 12 | 灰褐色土 | +++ | mt,opx | コーカス灰褐色岩片,fl,ob | | | 御岳上部テフラ |
| E1 | 13 | 灰褐色土 | +++ | opx,mt,cpx | fl,コーカス灰褐色岩片,ob | | | 御岳上部テフラ |
| E1 | 14 | 灰褐色土 | +++ | mt,opx,ho | fl,火山岩片,結晶片岩岩片 | | | 御岳上部テフラ>結晶片岩風化物 |
| E1 | 15 | 灰褐色土 | +++ | mt,大,opx | fl,白～灰褐色火山岩片 | | | 御岳下部テフラ |
| E1 | 16 | 灰褐色土 | +++ | mt,大,opx,ho | fl,白～灰褐色火山岩片 | | | 御岳下部テフラ |
| E1 | 17 | 灰褐色土 | +++ | mt,大,opx,ho | fl,白～灰褐色火山岩片 | | | 御岳下部テフラ |
| E1 | 18 | 赤褐色スコリア | ++++ | mt,opx,cpx | fl | | | 御岳山苗スコリア(MtS) |
| E1 | 19 | 褐色鉄石 | ++++ | opx,mt | fl>白～灰色火山岩片 | | | 御岳伊那鉄石(InP) |
| E1 | 20 | 黄色鉄石 | +++ | ho,mt,bl | fl | | | 御岳第1鉄石(On-Pm1) |
| E1 | 21 | 白色粘土 | +++ | ho,mt,bl | fl | | | 御岳第1鉄石(On-Pm1)粘土化 |
| E1 | 22 | 橙褐色土 | ++++ | opx,mt | fl | | | 御岳伊那鉄石(InP) |
| E2 | 23 | 赤褐色土 | ++++ | opx,mt | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳下部テフラ>結晶片岩風化物 |
| E2 | 24 | 赤褐色土 | ++++ | opx,mt | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳下部テフラ>結晶片岩風化物 |
| E2 | 25 | 褐色土 | ++++ | opx,mt,cpx,ol | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳下部テフラ>結晶片岩風化物 |
| E2 | 26 | 灰褐色土 | ++++ | 大,opx,mt | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳伊那鉄石(InP)>結晶片岩風化物 |
| E2 | 27 | ベージュ色 | +++++ | 大,opx,mt | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳伊那鉄石(InP)>結晶片岩風化物 |
| E2 | 28 | 灰褐色土 | +++ | 大,opx,mt | fl,白～灰色火山岩片,結晶片岩岩片 | | | 御岳伊那鉄石(InP)>結晶片岩風化物 |
| E2 | 29 | 灰褐色土 | ++++ | mt>大,opx,ho | 白～灰褐色火山岩片>fl | | | 御岳下垂穂石(On-K)? |
| E2 | 30 | 御岳下粘土層のオレンジ鉄石 | ++++ | mt>opx,ho | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳上垂穂石(KmP)? |
| E2 | 31 | 青灰褐色土 | ++ | mt>opx | 白～青灰褐色火山岩片,fl | | | 御岳下垂穂石(On-K)? |
| E2 | 32 | 灰褐色土 | +++ | mt>opx,ho | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳上垂穂石(KmP)?,結晶片岩風化物 |
| E2 | 33 | 赤褐色土 | +++ | mt>opx,ho | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳上垂穂石(KmP)?,結晶片岩風化物 |
| E2 | 34 | 赤褐色土 | ++ | mt>ho,opx | fl,結晶片岩岩片 | | | 御岳上垂穂石(KmP)?,結晶片岩風化物 |
| E2 | 35 | 赤褐色土 | + | mt>ho | fl,結晶片岩岩片 | | | 結晶片岩風化物>御岳上垂穂石(KmP) |

凡例

高角品・火山ガラス品：+：1%以下 ++：1～10% +++：10～50% ++++：50～80% +++++：80%以上
 鉱物名 opx：斜方輝石 mt：磁鐵鉄 ho：角閃石 fl：長石 at：石英 gl：火山ガラス bw：バブル面 pm：報石型

II 北側壁面のテフラの変状

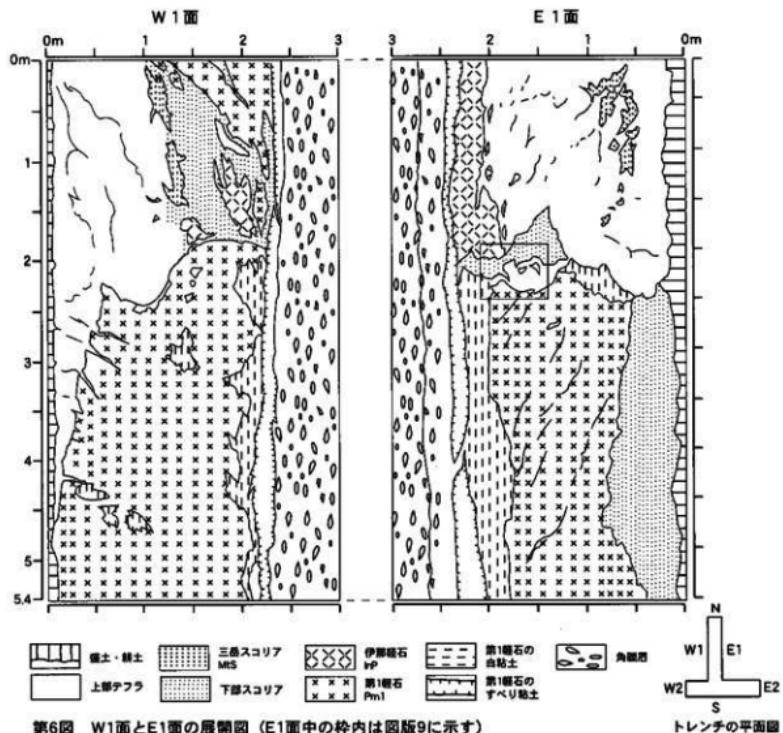
◇剪断面の存在……①と②の右側に高角度の剪断面が現れている(第5図)。

2ホンの剪断面に挟まれたMtSは鋭角を下にする楔形である。剪断面の放校は南北で中央構造線方向と一致している。左側の剪断面を直行した断面で見ている。剪断面の形状から見て横ずれ移動によって生じる形態である。これから、トレーナーを剪断面方向に南へ伸ばして掘削することにした。

◇すべり面の存在……角礫層の上に載っている⑨の白色粘土層は厚さがほぼ20cmでその上面と下面は暗褐色の粘土の薄層がついている。この部分がすべり面になって厚さ2.4mのテフラの部分が側方移動すべりをしていると観察した。すべり面より下位の礫層は基質が粘土質で不透水層になりやすく、Pm1は本来極めて粗粒のため、粒間に水が入りやすくなるPm1全体が帶水層になっていたと考えられる。

III 西側・東側壁面の様子

最初に観察した北側壁面からテフラ全体が側方に滑って激しく変状していること、そのすべりの方向が南北であることから、トレーナーを南側に6.5mまで延長した。そのうち、5.4mまではトレーナー幅が1mと狭く、壁面の全体写真を撮影することは不可能であった。西側のW1面と東側のE1面の変状状況をスケッチでの展開図で示す(第6図)。



第6図 W1面とE1面の展開図 (E1面中の枠内は図版9に示す)

トレンチの平面図

第6図の両壁面ともPm1の下部にある角礫層は南側にわずかに上昇しているから、北に向かってわずか傾斜することになる。南から北に向かって滑りやすい可能性がある。

Pm1は北面(N面)から約2mの付近で厚さが大きくなり、展開図に示した長さ5.4mのトレンチで南側の約3分の2はトレンチの深さ全体がPm1で占められる。厚いところでは2m以上になっている。とくに、W1面の南側では地表までPm1が露出している。水田耕作土の下に直接Pm1が見えていたところである。

北面から2m付近でPm1は不規則な境目で消滅する。境目から20cm～30cm離れてちぎれちぎれになったMtSとInPとが上から下まで断続してつながっている。その一部を図版9に示し、テフラの同定を以下に記す。

◇境界部のテフラ(図版9・表3参照)……12・13は御岳上部テフラである。これと接する20・21はPm1あるから、ここも正常な関係でなく攪拌されている。15・16・17は御岳下部テフラだから、22のInPとの間はあまりギャップがないが、18のMtSと19のInPとは異常な関係になっている。

△すべり粘土の存在……トレンチの南面から2m地点までの4.5m間は全体がPm1で占められる。このうち、角礫層の直上に、厚さ20cmの白粘土化したPm1があって、トレンチ内全体にわたって分布している。その上下の部分は茶褐色の粘土になっている。この粘土層がすべり粘土として働き、テフラ全体を動かしたと考える。

◇W1面E1面のPm1の産状・・すべり粘土の上に約2.2mの厚さでPm1がある。その下位の部分は白粘土（カオリン）化している。Pm1の主要部分は粘土化をまぬがれているが、部分的に不規則な形状で白く粘土化している。それらには不明瞭ながらも方向性が見られる。その方向とPm1中に発達している亀裂や線状かの模様は同じ向きになっている。W1面の亀裂はN60W・45S、E1mennではN72W・27S及びN45E・48Sなどが計れた。亀裂や線状の模様は全体に南傾斜している。

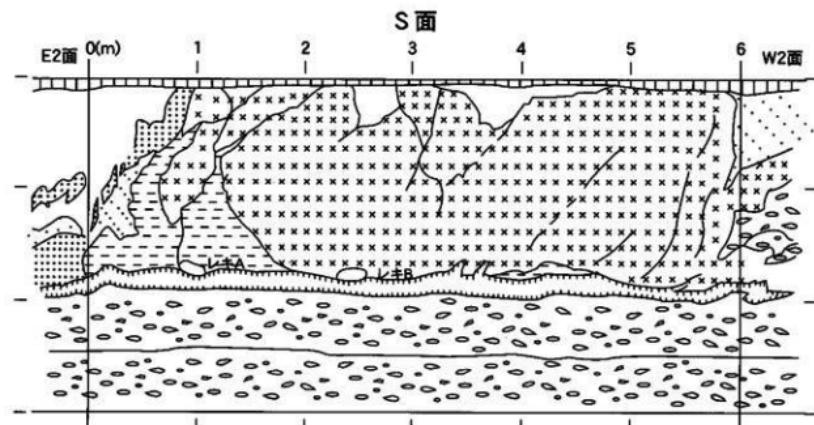
IV E2面の産状（図版10参照）

上部の試料23・24・25は上部テフラである。25の暗褐色を示す部分はMtSの上に重なるテフラでオリーピンが含まれる特徴がある（表3）。26・27・28は下部テフラである。26中にはInPの混入する。ベージュ色の27はInPが粘土化しているためである。28はInPを多量に含む。29は火山岩片を多く含んでおり御岳渕町テフラ（On-Kt）と思われる。この面でのすべり粘土は渕町テフラと伊那軽石が加わっている。27・28・29の上に包まれるようにPm1がある。下位の角礫層中には30の御嶽上垂軽石（以下KmPと記す）が含まれていると見られる。KmPは多くの磁鐵鉱が含まれる特徴を持っている。

V W2面の産状（図版10参照）

最上部は下部テフラで31に御岳渕町テフラが確認でき、Pm1が多量に混入している。その下にPm1が薄く伸びている。32・33は角礫を多く含む粘土層の礫層であり、KmPが混じっている。34・35は粘土質であって、KmPを混入して角礫も含まれる。

W2面はPm1より下位の角礫層がPm1を割り込んで複雑な入り方をしている。E2面と比較したときW2面の方がPm1より下位の地層までが激しく動いた様子が見える。



第7図 南側壁面（S面）スケッチ図（凡例は第6図と同様）

VI 南側壁面（S面）の産状

S面の概略のスケッチ図が第4図である。全面にPm1が出ている。前項で記したようにS面に統くE2・W2面から見てS面の両端はPm1が途切れるような産状を示している。しかし、S面の両端の様子は異なる。

東側（E面側）はPm1の上にInPが出てくる。西側（W面側）はPm1より下位の礫層がでてくる。西側の方は礫層までを取り込んで動いてきている。これは中央構造線との位置関係に原因があるのか

もしれない。

S面のすべり粘土層の直上に2個の円礫が入っている。レキAは長径23cmで四万十帯の砂岩礫である。レキBは長径37cmでホルンヘルスである。源岩は四万十帯の砂岩で、錦岳周辺に産出し、駒ヶ岳花崗岩による熱変成岩で、黒雲母の晶出によりアズキ色を呈する。これらの円礫は三峰川による段丘礫層起源である。中非持の調査では三峰川の段丘礫層まで確認していない。ダム湖に面した崖の堆積物には段丘礫層が入ってくると予想できる。未確認にしても、トレンチ内に出てる角礫層より下位にあると推定する礫をつかんできていることは事実である。

(4)まとめ

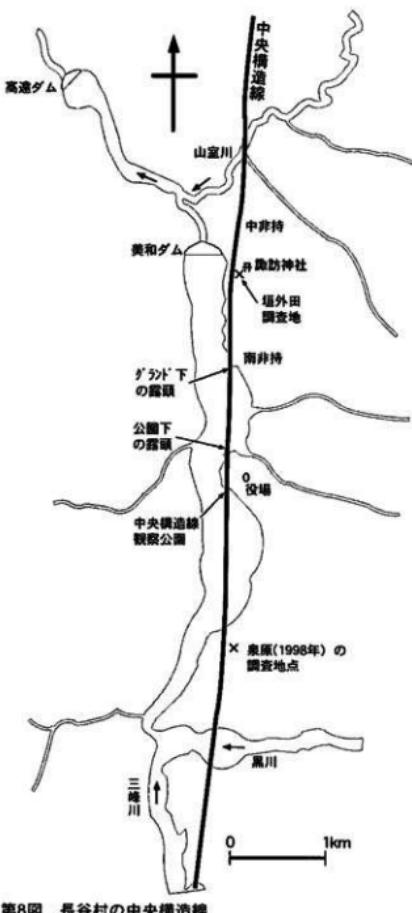
中非持の源訪神社西側の垣外田地籍で厚さ2.4mのテフラ層全体が異常な乱堆積をしている事実が判明した。明瞭なすべり面を持つことから、地すべり性の産物である。その、すべりの方向は南北性で、南から北へ向かっている。すべり土塊の下位にはPm1があって、この地層がすべて本体になっている。Pm1の下層部やは断を受けている部分は白粘土（カオリーン）化しているから、水の関与が大きい。Pm1の下位には不透水性の粘土質角礫層があり、多孔質のPm1は帶水層になりやすい。こうした条件の中で地すべりを発生する引き金があったと考える。

地すべりの発生の引き金は地震動によると考えている。垣外田地籍の直下に中央構造線がある。ここで地震が発生したときにPm1中の水が瞬時に液状化してテフラ層全体のすべりになった。すべりの方向が南北で、南から北への横すべりであるから、地盤はすべりと逆方向に動き、その慣性力で

北への横すべりが発生したと考える。すると、中央構造線の正確な位置はすべり土塊のすぐ西側となる。中央構造線の動きは、全快（1998年）の泉原の調査で結論されていることから、この地籍でも右横ずれであると考える。

泉原の調査は平成10年（1998年）に実施された。報告書は『泉原遺跡』長谷村教育委員会発行2000年全316ページとしてまとめられている。これの口絵カラーおよび8ページ～22ページに『地形および地質 泉原における中央構造線の新期活動』として“側方移動性の円弧地すべり”を述べている。これと、今回の状況が実によく一致している。長谷村における中央構造線の通過地点と泉原および垣外田地籍の位置関係を第8図に示す。

今回の垣外田地籍では箇場整備で表層に載ってくる最新のテフラ層は削り取られ、広域テフラの始良Tn火山灰（AT）や鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）が確認できなかった。このため、中央構造線の最



第8図 長谷村の中央構造線

新の地震活動がいつ起こったか決まらなかった。泉原と同時に発生したイベントであると考えられるから、地震の発生はAT(2.5万年)以降で、K-Ah(7300年=暦年補正值)より前の出来事であると見られる。長谷村地域の中央構造線の新規活動が、2箇所において同じ様な現象として発見された意義は大きい。活断層としての中央構造線の認識がまた一步深まったといえる。

第3節 歴史的環境

「非持」という地名を村内外の史料で検証すると、天正10年3月（1582）城主仁科五郎盛信・守る高遠城は織田信忠率いる五万の大軍の猛攻に激闘十余時間のはて城将盛信自刃す。伊那谷における武田氏最後のとりでも遂に落ち、甲斐の名族武田氏も3月9日天目山に滅亡す。これより前3月5日織田信長は非持郷に禁制を建てた、それによると「比地郷」と印されている。120軒が菩提寺を5ヶ寺に分断された、信長が住民の反逆蜂起を恐れたものと考えられる。

中非持遺跡

中非持集落の北のはずれに位置し、約2万年前と言われている木曾御嶽の噴火に起因する堆積土（ローム層）上にあった遺跡である。この遺跡からは、昭和48年頃の開田時に長さ45cmの巨大な石棒が出土した経緯がある。今回の調査地はその北隣の窪地で沼地である。今回の調査で縄文時代中期と思われる埋甕が押しつぶされた状態で出土しているが、この付近は縄文時代から近世にいたる間に遺跡の東方の山手通称「柄洞」が地震や集中豪雨等により「山ぬけ」で埋没したのではないかと考えられる。その後10世紀頃沼地ができ苧麻を植え米を作ったものと考えられる。またこの付近は現在まで「御社口（ミシャグチ）」と呼ばれている。

垣外田遺跡・神明塚遺跡

両遺跡とも美和湖畔に位置し、1955年の美和ダム堰堤構築により大部分を破壊されたのではないかと考えられる。また垣外田遺跡での地層調査の結果をみると中央構造線が分断されその隙間に土砂が流入しそのすさまじい形態をみせつけられ、その災害の大きさを窺うことができる。

第3章 遺構と遺物

第1節 調査の概要

今回の調査は、県営圃場整備事業中非持地区工事に伴う埋蔵文化財の記録保存のため、実施した調査である。調査地は長野県上伊那郡長谷村大字非持95-1付近の地区内3箇所が調査の対象となった。

調査は平成13年度10月4日から11月27日まで実施した。実施面積は合計で7,084m²であった。全遺跡とも事前調査として巾2mのトレンチを設け試掘を行った。その結果、各遺跡共に遺物遺構の発見が殆ど見られず本調査を実施する必要がないと決定した。

中非持遺跡では第2トレンチD区付近から122点と拡張区から123点の計245点の遺物が出土した。遺物出土層は碎けた細かい石が混じり硬く締まる、粘土質の強い黒褐色土層中に破片で散在して出土した。黒褐色土層は第10図のごとく北側は人頭大の石が集積を境に礫が混じる茶褐色土に変わる。南側は緩い傾斜で礫の混じる茶褐色土層に代わる。さらに南側は緩い傾斜で続いている。遺物の埋没する黒褐色土層は窪地で南北帯状で南東より北西に緩い傾斜地形は現地形と同じであろう。

第2節 中非持遺跡

(1) 遺構

遺物245点が出土した地域から南側に20×15m内に炭化物があり火を使用した痕跡があった。床面状の遺構は確認できず、平地住居址や堅穴住居址を思ひ出す遺構も検出できなかった。出土遺物は3点が石で、それ以外は土器破片であったが発掘時に割れたもの以外は割れ口が磨滅しにくくなっていた。文様が施されている破片も、どのような文様を施されていたか確認できないほど磨滅していた。遺跡を形成する地形から、黒褐色土の帶は段丘面からの湧水する水の流れと考えられる。土器破片は水際に埋められた土器であろう。

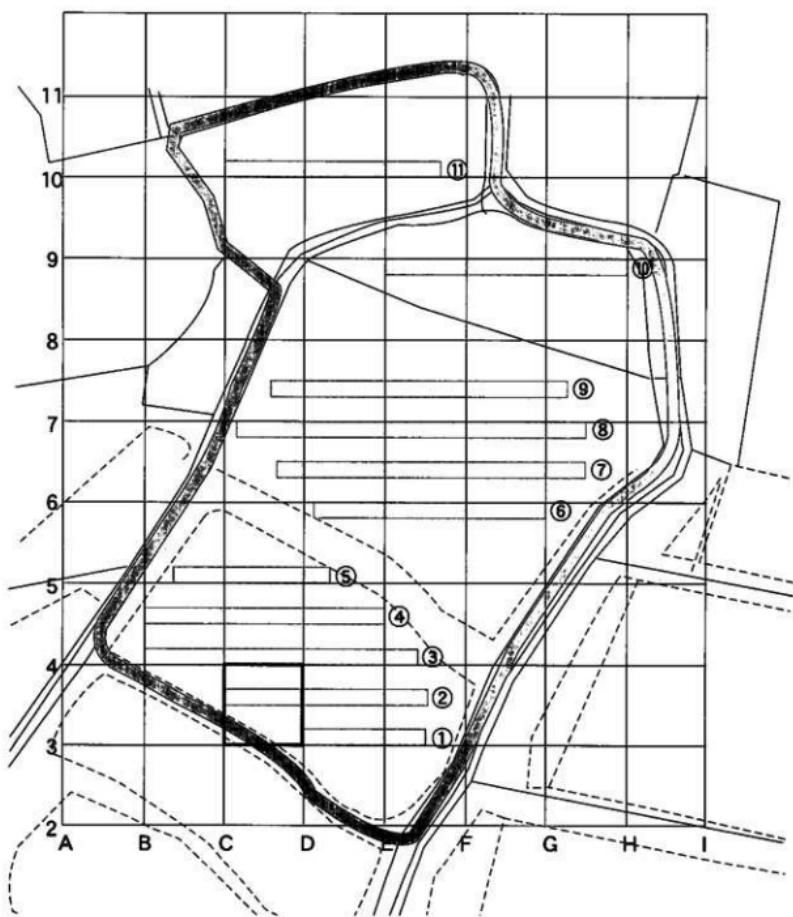
(2) 遺物

土器破片242片は遺物一覧表のごとく縄文中期中葉時代から出土している。第10図に見るごとく1、2、3、5、6、14と広く分布する。今期での調査で集積して出土した遺跡は縄文後期末～晩期前半の深鉢形土器2個体である。4～7mmの厚さ、波状口縁と注口部分がある深鉢形土器は胎土に長石、砂粒、雲母が細かく粉状に混在し固く締めて焼成された1個体と6～9mmに成形された。底部から胴下部が検出した1個体が主要な資料の他に僅かではあるが3個体分の資料が検出している。調査区内から弥生時代の壺形土器破片と思われる資料1点と調査区内の別のトレンチから中世や江戸時代の陶磁器破片が出土する。

(3) 遺跡の全体像

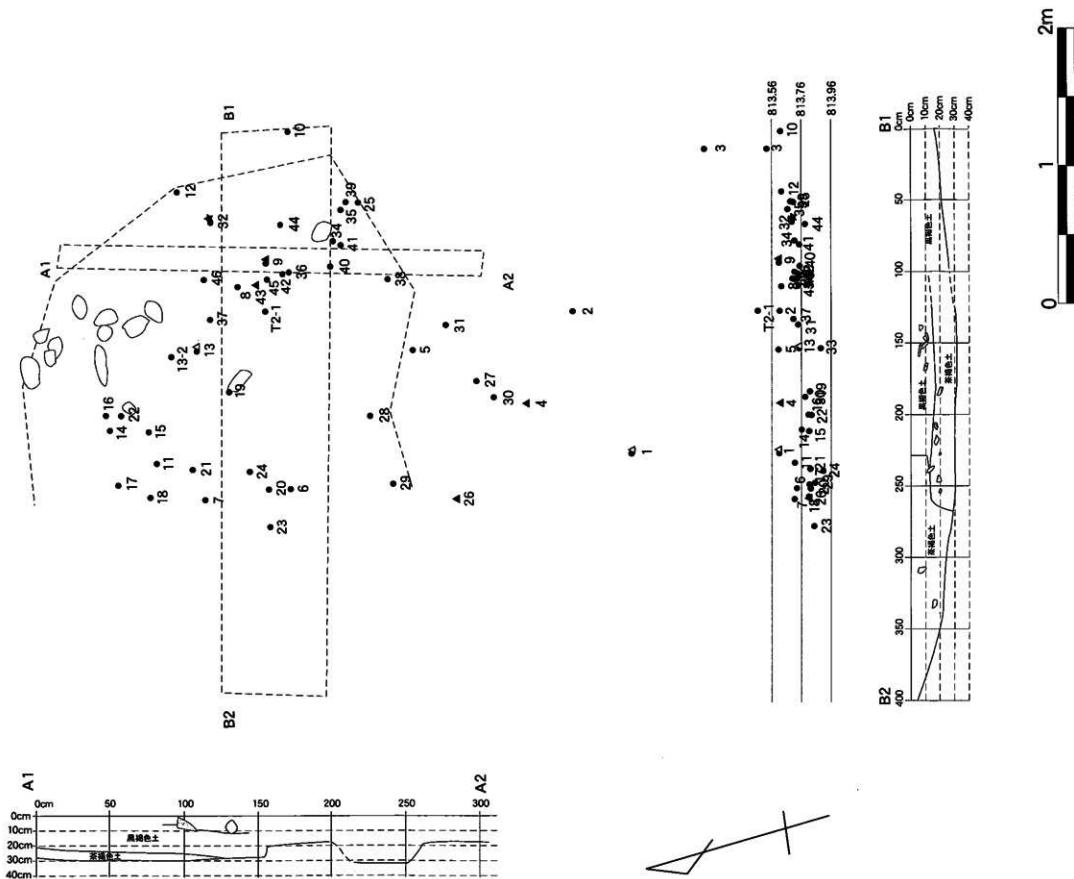
今回の調査から、中非持遺跡は縄文中期中葉に入々が生活を営んでいたのが出土遺物が物語っている。土器破片が谷川瀬に残されていた。今回の調査の主要遺物は縄文後期末～晩期初期であり、近年大規模遺構で発見されているクリ、トチの虫出しアクリ抜きを行う施設遺構の小規模と考えたい。

谷状地形に流れる小さい流れを利用して流れの瀬に深鉢形土器を埋めてクリやトチの虫出しアクリ抜きを行う施設であった。安定した湧水の流れは弥生時代から中世江戸時代まで飲料水に使用された湧水であった。丘の上には縄文後期末から晩期にかけた生活址、住居址群があって、冬に向かい収穫された食物保存加工施設の一部と見たい。



第9図 中非持追跡トレンチ図

第10図 中非持造跡拡張箇所遺物分布図及び地層断面図

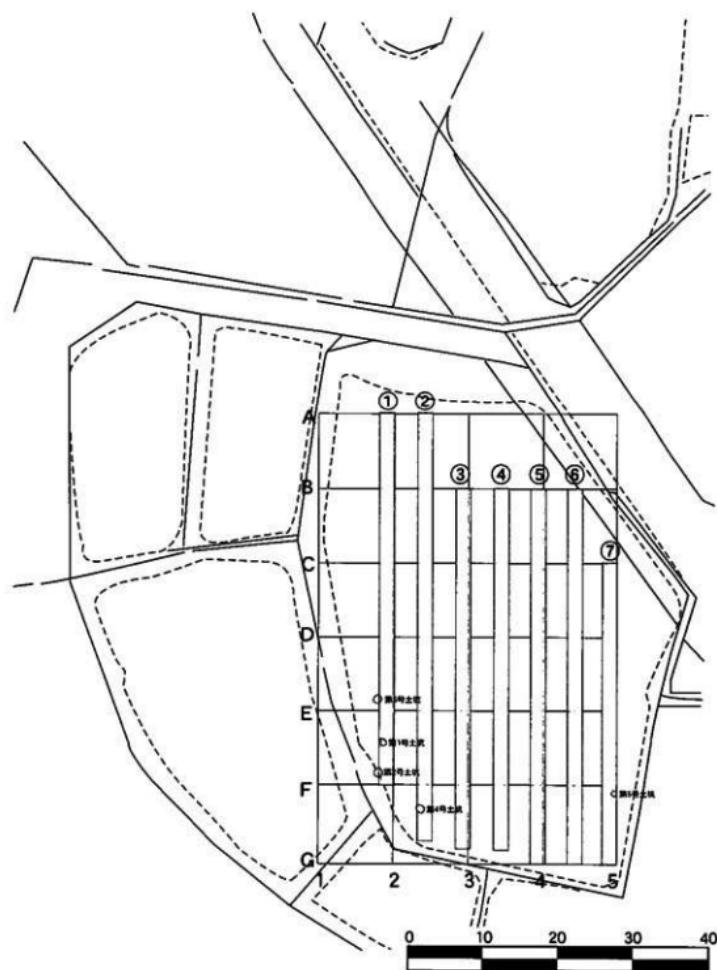




第3節 塹外田遺跡

今回の調査により第2トレンチE区内に2箇所、D区南側に1箇所、第3トレンチF区中央西側に1箇所と第7トレンチF区内に1箇所の計5箇所の土坑が検出した。しかしそ他の地域は以前実施した水田圃場整備工事により削除されて消滅していた。

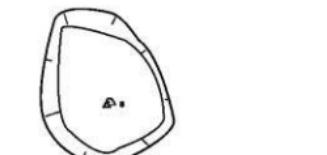
北東地域の一部に、住居址の床面と見られる部分が検出できたが、多くが破壊されて、広がりを検出するまでにはならなかった。



第11図 塹外田遺跡トレンチ位置図

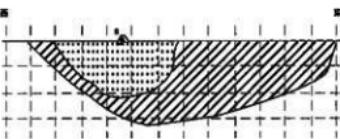
(1) 第1号土坑(第12図、図版1上)

第1トレンチE区中央西側に検出した土坑である。土坑内から縄文中期後葉土器破片4片と砂岩、黒曜石破片が出土した。



(2) 第2号土坑(第12図、図版1下)

第1トレンチ南端に検出する、やや西側に柱穴状掘り込みがあり、検出面直下に花崗岩が検出した。その下層からと土坑床面上から縄文中期土器片6片と炭化物、打製石斧が出土する。



(3) 第3号土坑(図版2上)

第1トレンチD区南端に検出する。小破片と自然石片出土が出土する。

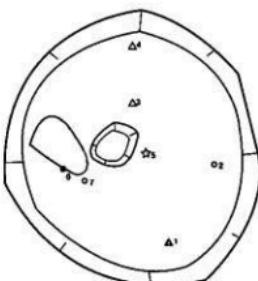
(4) 第4号土坑(第12図、図版2下)

第2トレンチ南端に検出する。すり鉢状遺構内から土器破片4片が出土する。

(5) 第5号土坑

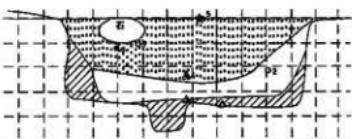
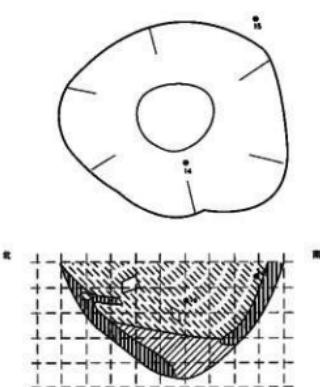
第7トレンチF区東側に検出する。黒土が埋まり、縄文中期1片、縄文後期無文薄手土器3片、ロクロ痕のある薄い土器破片2片が検出する。

道路に面する第6トレンチ北側に住居址の床面状遺構と豆粒状土器片が出土するも、遺構を検出できなかつた。



(6) 垣外田遺跡の調査から

垣外田ではすでに行われた、水田圃場整備工事で多くの遺構が破壊された一部であろう。

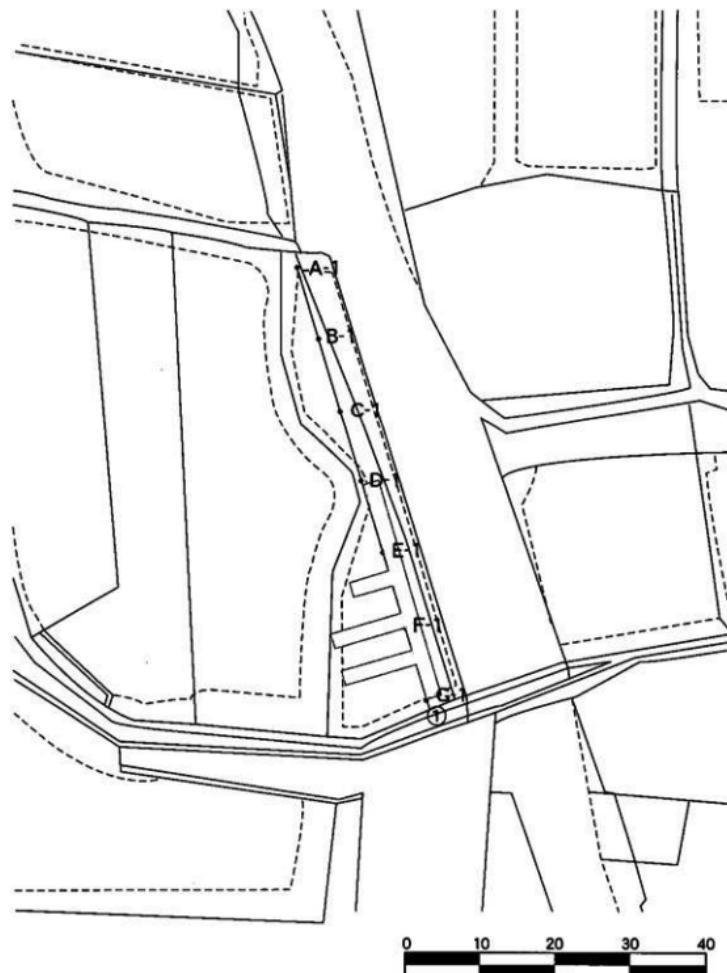


| | |
|----------|-----|
| 高褐色土(O1) | 褐色土 |
| 高褐色土(O1) | 褐色土 |
| ローム高褐色土 | 赤土 |
| 高土 | |

第12図 第1号土坑(上)、第2号土坑(中)、第4号土坑(下)実測図及び遺物位置図

第4節 神明塚遺跡

神明塚遺跡は谷状地形に厚く粘土質の多い黒色の泥炭質層地層が堆積した。今回の遺跡調査により須恵器1片、内耳土器3片と打製石斧3個体が出土した。黒色泥炭層は軟弱に堆積して、層位中に遺構は検出できなかった。調査地点東方に中世から近世初期の住居址があって廃棄され陶器破片が流失して遺物が埋没した遺跡であると考えられる。



第13図 神明塚遺跡トレンチ位置図

ま と め

(1) 中非持遺跡

中非持遺跡では飯島町本郷若森社遺跡に類似する谷状地形の低湿地から縄文時代後期から晩期初期の深鉢形土器がまとめて出土した。

これは近年低湿地遺跡から検出報告されている木材を組み合わせて水岸に木道を造り水庭に板囲いの水溜や堰きとめ遺構の小規模遺構であろう。木材を使用した遺構は隣接する多数の集落共同体の遺構であるが、中非持ではこの地域の少數の人々の秋収穫した堅果類の虫殺しや洗浄、アクヌキに使用した施設で伊那地域では稀少の遺構である。

長野県内縄文時代中期後葉の遺跡は各地に多く発見しているが後期遺構の遺跡は少なくなる。中非持遺跡を参考に遺跡立地を原点に見直した調査を考えたい。

(2) 垣外田遺跡

垣外田遺跡の調査は出土遺物から縄文時代中期後葉の土坑4基と近世の土坑1基が検出した。

縄文時代の土坑の上部は調査時点の水田造成工事で上部は削平され下層の一部のみであった。第1号土坑と第2号土坑には下層が平らな部分があり、特に第2号土坑には中央部に堀があり柱穴を考えさせる遺構である。第4号土坑は下層がV字型で三者別々の用途で造られているのである。上層削平と共に土坑の用途は多様で決定できない遺構である。

垣外田遺跡は東側道路地域を含み最良の立地であり今回検出した土坑は集落周辺部に造られた遺構の一部であろう。第5土坑は近世陶器が出土する遺構である。

(3) 神明塚遺跡

神明塚遺跡は調査時の水田は他地区の土の埋め土で水田が造られていた。下層に粘土質の多い黒色の泥炭質地層が堆積した沼状の湿地であった。分布調査により東側高地に縄文時代中期の住居址が確認できた石器はその時代のものである。須恵器は在地産で窯は不明。内耳土器も伊那地域で多く見られる焼成である。内耳土器は鍋として使用され近年の発掘調査から城址内遺構や居館内遺構から多くが出土している。(須恵器、内耳土器に付いては瀬戸市埋蔵文化財センターの藤沢氏より指導、助言を頂いた。)

調査地区東側地域に中世後期の遺構があったのだろうか。

参考文献

| | | |
|------------|------------------------------------|------------------|
| 桜町遺跡発掘調査団編 | 北陸の縄文遺跡 桜町遺跡調査概報 | 2001.9 |
| 金箱文夫 | 埼玉県赤山陣屋跡遺跡 | |
| 飯島市教育委員会 | －トチの実加工場の語る生業形態－季刊考古学第55号 若森社遺跡 | 1996.5 2001.3 |

遺跡発掘調査遺物一覧表

| 石名 | 石名 | 产地 | 地層名 | 岩種 | 英文 | | | 古代 | | | 地層名 | 地層名 | 英文 | | | 古代 | | | 地層名 | |
|---------|-------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|-------|------|----|----|----|----|----|----|--------|----|
| | | | | | 中層 | 上層 | 下層 | 中層 | 上層 | 下層 | | | 中層 | 上層 | 下層 | 中層 | 上層 | 下層 | | |
| T2 | I-119 | | | | | | | | | | 13-12 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | I-120 | 3 | | | | | | | | | 13 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | I-121 | 3 | | | | | | | | | 14 | | ○ | | ○ | | | | 内に点カス | |
| | 2-1 | | ○ | | | | | | | | 15 | | ○ | | ○ | | | | | |
| T3 | I-1 | ○ | | | | | | | | | 16 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | I-2 | ○ | | | | | | | | | 17 | | ○ | | ○ | | | | 田端石 | |
| | I-3 | | | | | | | | | | 18 | | | | | | | | | |
| | I-4 | | | | | | | | | | 14-1 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | I-5 | ○ | | | | | | | | | 2 | | ○ | | ○ | | | | 透部付面 | |
| T4 | I-1 | | | | | | | | | | 15-1 | | ○ | | ○ | | | | 内外表面側げ | |
| | 2-1 | 3 ○ | ○ | | | | | | | | 2 | | ○ | | ○ | | | | 外端やせ | |
| | 2 | ○ | | | | | | | | | 16-1 | | ○ | | ○ | | | | 内側丸さ | |
| | 3-1 | ○ | | | | | | | | | 17-1 | | ○ | | ○ | | | | 透底 | |
| T6 | I-1 | ○ | | | | | | | | | 18-1 | 3 | ○ | | ○ | | | | 原平、口静面 | |
| T7 | I-1 | ○ | | | | | | | | | 19-1 | | | | | | | | | |
| T8 | I-1 | ○ | | | | | | | | | 20-1 | 3 | ○ | | ○ | | | | 口静小片 | |
| | I-2 | ○ | | | | | | | | | 21-1 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| 中井井試掘部所 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | |
| | 1-1 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 22-1 | | ○ | | ○ | | | | 8mm厚手 | |
| | 2 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 23-1 | | ○ | | ○ | | | | 内ザライ | |
| | 3 | ○ | | | | | | | | | 24-1 | | ○ | | ○ | | | | 不明 | |
| | 4 | ○ | | | | | | | | | 25-1 | | | | | | | | 勝源窓？ | |
| | 5 | | | | | | | | | | 26-1 | | | | | | | | 済面 | |
| | 2-1 | ○ | | | | | | | | | 2 | | ○ | | ○ | | | | 良好 | |
| | 2 | ○ | | | | | | | | | 3 | | ○ | | ○ | | | | 内ザライ | |
| | 3 | ○ | | | | | | | | | 4 | | ○ | | ○ | | | | 内ザライ | |
| | 3-1 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 5 | | ○ | | ○ | | | | 内ザライ | |
| | 4-1 | | ○ | | | | | | | | 26-1 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 5-1 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 27-1 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 6-1 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 28-1 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 2 | ○ | | | | | | | | | 2 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 3 | ○ | | | | | | | | | 3 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 7-1 | ○ | | | | | | | | | 4 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 8-1 | ○ | | | | | | | | | 5 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 2 | ○ | | | | | | | | | 6 | | ○ | | ○ | | | | 丸い毛って | |
| | 3 | ○ | | | | | | | | | 7 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 4 | ○ | | | | | | | | | 28-1 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 5 | ○ | | | | | | | | | 30-1 | 3 | ○ | | ○ | | | | 底部か口部片 | |
| | 6 | ○ | | | | | | | | | 2 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 7 | ○ | | | | | | | | | 3 | | ○ | | ○ | | | | 底誠 | |
| | 8 | ○ | | | | | | | | | 4 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 9-1 | ○ | | | | | | | | | 5 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 2 | ○ | | | | | | | | | 31-1 | 3 | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 3 | ○ | | | | | | | | | 砂多、雲母 | 2 | | | | | | | 小破片 | |
| | 4 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 3 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 5 | ○ | | | | | | | | | 32-1 | | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 6 | ○ | | | | | | | | | 2 | | ○ | | ○ | | | | 涙 | |
| | 7 | ○ | | | | | | | | | 34-1 | | ○ | | ○ | | | | 内凹地？ | |
| | 8 | ○ | | | | | | | | | 2 | | ○ | | ○ | | | | 内外凹 | |
| | 9 | | ○ | | | | | | | | 3 | | ○ | | ○ | | | | 脚下感 | |
| | 10-1 | ○ | | | | | | | | | 4 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 2 | ○ | | | | | | | | | 35-1 | | ○ | | ○ | | | | 脚下部 | |
| | 11-1 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 口縫部 | 2 | ○ | | ○ | | | | 小破片 | |
| | 12-1 | ○ | | | | | | | | | 3 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 13-1 | ○ | | | | | | | | | 脚平 | 36-1 | 3 | ○ | | ○ | | | | 底生 |
| | 2 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 往口部 | 37-1 | | ○ | | ○ | | | | |
| | 3 | ○ | | | | | | | | | 不明 | 2 | 3 | ○ | | ○ | | | | |
| | 4 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 底口部 | 3 | 3 | ○ | | ○ | | | 底幅4 | |
| | 5 | ○ | | | | | | | | | 4 | | ○ | | ○ | | | | 内 | |
| | 6 | ○ | | | | | | | | | 5 | 3 | ○ | | ○ | | | | 内である | |
| | 7 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 底上左 | 6 | | ○ | | ○ | | | 内みがく？ | |
| | 8 | ○ | | | | | | | | | 7 | | ○ | | ○ | | | | 底幅4上！ | |
| | 9 | ○ | | | | | | | | | 8 | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 10 | ○ | | | | | | | | | 9 | 3 | ○ | | ○ | | | | | |
| | 11 | 3 ○ | | ○ | | | | | | | 底部 | 10 | | ○ | | ○ | | | | |

| 番号 | 岩名 | 特徴 | 母岩 | 母岩種別 | 母岩層 | 母岩層別 | 露文 | | | 古代 | 中間 | 後期 | 鉱物 | 鉱物名 | 露文 | | | 古代 | 中間 | 後期 | 鉱物 | 鉱物名 | | | |
|---------|----|----|----|------|-----|------|----|----|----|----|----------------|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|--|--|--|
| | | | | | | | 初期 | 中期 | 後期 | | | | | | 初期 | 中期 | 後期 | | | | | | | | |
| 37-11 | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 38-1 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 38-2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 39-1 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40-1 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 41-1 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 42 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 42-1 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 43-1 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 44-1 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 45-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 46-1 | | | | | | | | | | ○ | 鉄 | | | | | | | | | | | | | | |
| 柱外付記跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土2-1-1 | | | | | | | | | | | 出雲石 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土2-2-1 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 明治帯 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 明下部 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 支離 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土2-3-1 | | ○ | | | | | | | | | 硬砂岩 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土2-4-1 | 5 | ○ | | | | | | | | ○ | 緑色帶 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 5 | ○ | | | | | | | | ○ | 石井 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土2-5-1 | | | | | | | | | | | 灰 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土2-6-1 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 堆積層に近い部分 同一 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 2-1と同一 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土2-7-1 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 源ノ小野町？ | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 木原、朝下部 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土2-8-1 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 木原、口緑部 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 木原 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 木原 | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 木原 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9-1 | 4 | ○ | | | | | | | | | 時期不明 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | | 自然石 | | | | | | | | | | | | | | |
| 10-1 | | ○ | | | | | | | | | タタキ石？ | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | ○ | 麻鳴石 | | | | | | | | | | | | | |
| 11-1 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 同一 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 陶器 | | | | | | | | | | | | | | |
| 12-1 | 4 | | | | | | | | | ○ | 灰 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土3-13-1 | 4 | | | | | | | | | ○ | 陶器、動竹 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | | | | | | | | | ○ | 動、錐状 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土3-14-1 | 4 | ○ | | | | | | | | | 小鏡内で不鮮 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 小鏡内で不鮮 | | | | | | | | | | | | | | |
| 15-1 | 4 | ○ | | | | | | | | | 小鏡内で不鮮 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | | 小鏡内で不鮮 | | | | | | | | | | | | | | |
| TJ-1 | -1 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| TJ-1 | -1 | 4 | ○ | | | | | | | ○ | 時期不明 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 無文 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 陶器 | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 海芋、無文 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 海芋、無文 | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 今世、ロクロ使用 | | | | | | | | | | | | | | |
| 押出確認跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-1 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | 同一、内耳返 側に近い | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | ○ | | | | | | | | ○ | 自然石 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-1 | | ○ | | | | | | | | ○ | 自然石 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4-1 | 4 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5-1 | 4 | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 5 | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 5 | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 5 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

図 版



第 1 号土坑



第 2 号土坑

图版 2

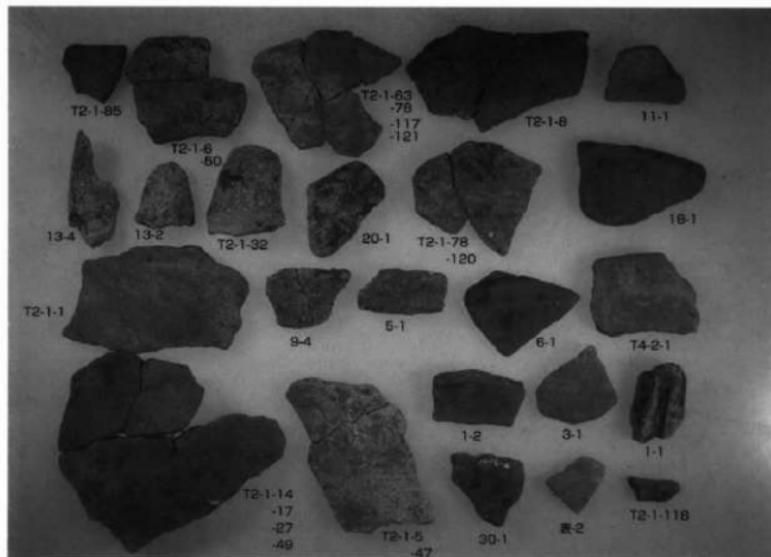


第 3 号土坑

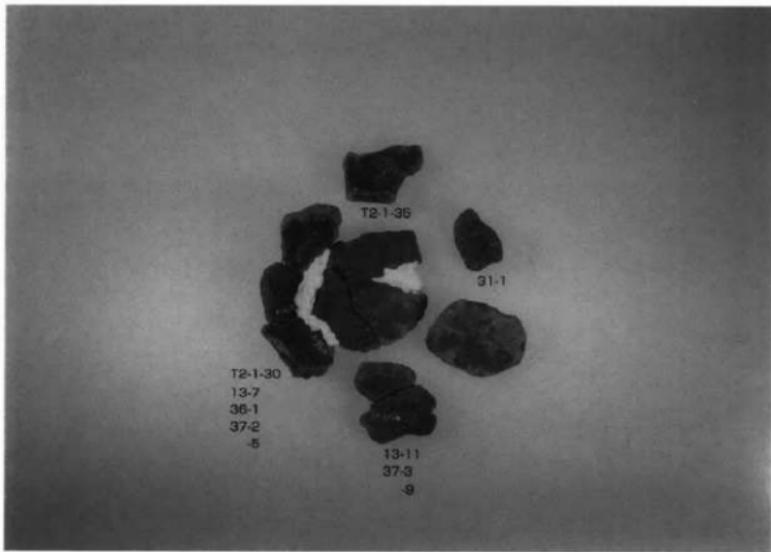


第 4 号土坑

図版 3

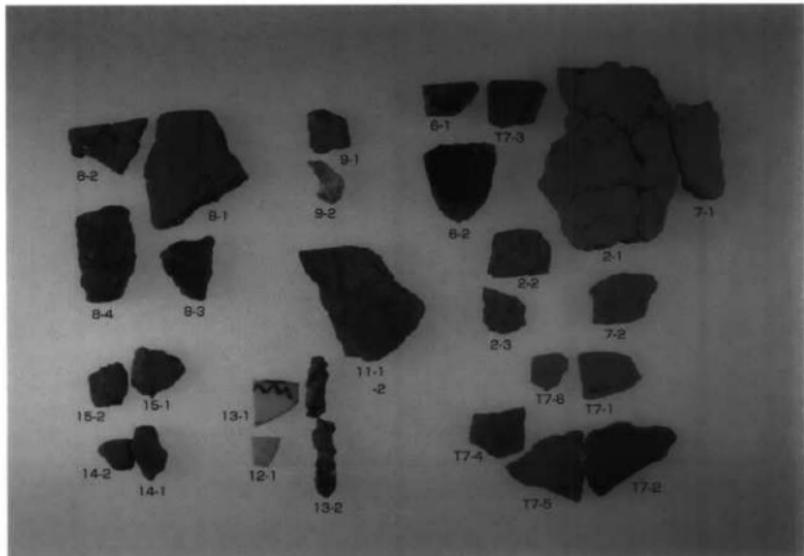


中非持遺跡拡張箇所遺物-1（数字は遺物番号）

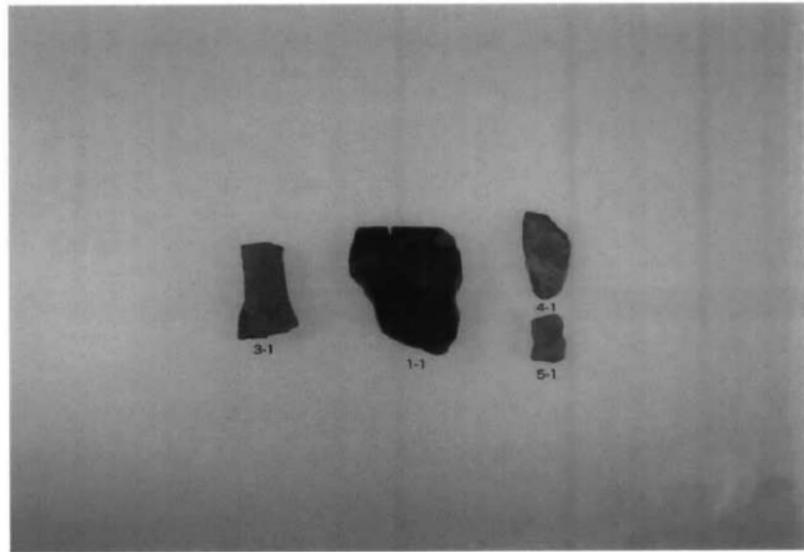


中非持遺跡拡張箇所遺物-2（数字は遺物番号）

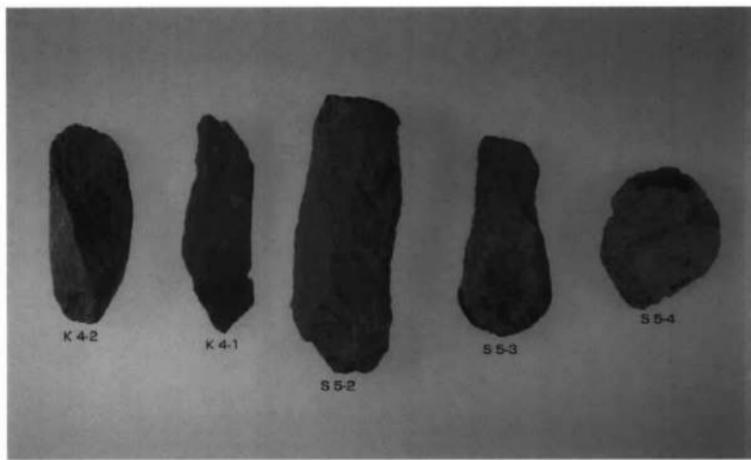
図版 4



坦外田遺跡遺物（数字は遺物番号）



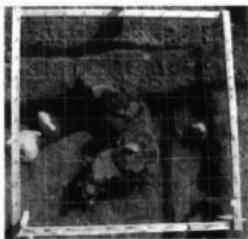
神明塚遺跡遺物（数字は遺物番号）



垣外田遺跡及び神明塚遺跡石器（数字は遺物番号）



中非持遺跡近景



中非持遺跡出土状況



中非持遺跡出土状況

図版 6



垣外田遺跡近景



垣外田遺跡試掘トレンチ



垣外田遺跡発掘状況



垣外田遺跡出土状況



神明塚遺跡発掘状況-1



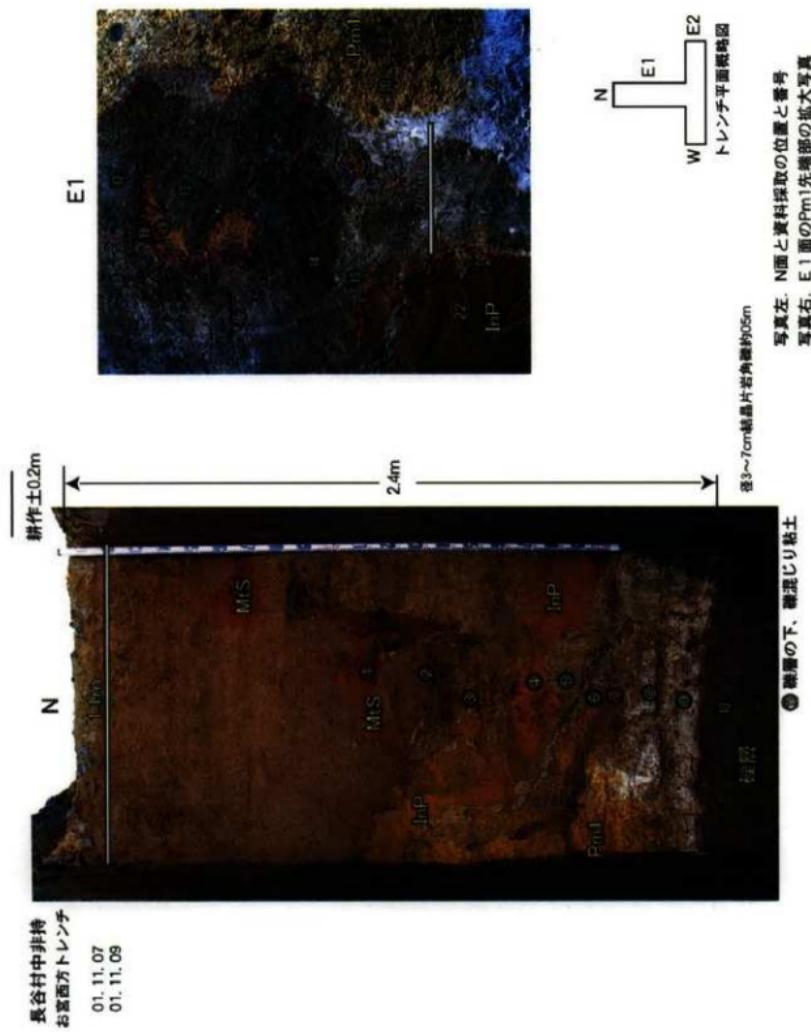
神明塚遺跡発掘状況-2

図版 8

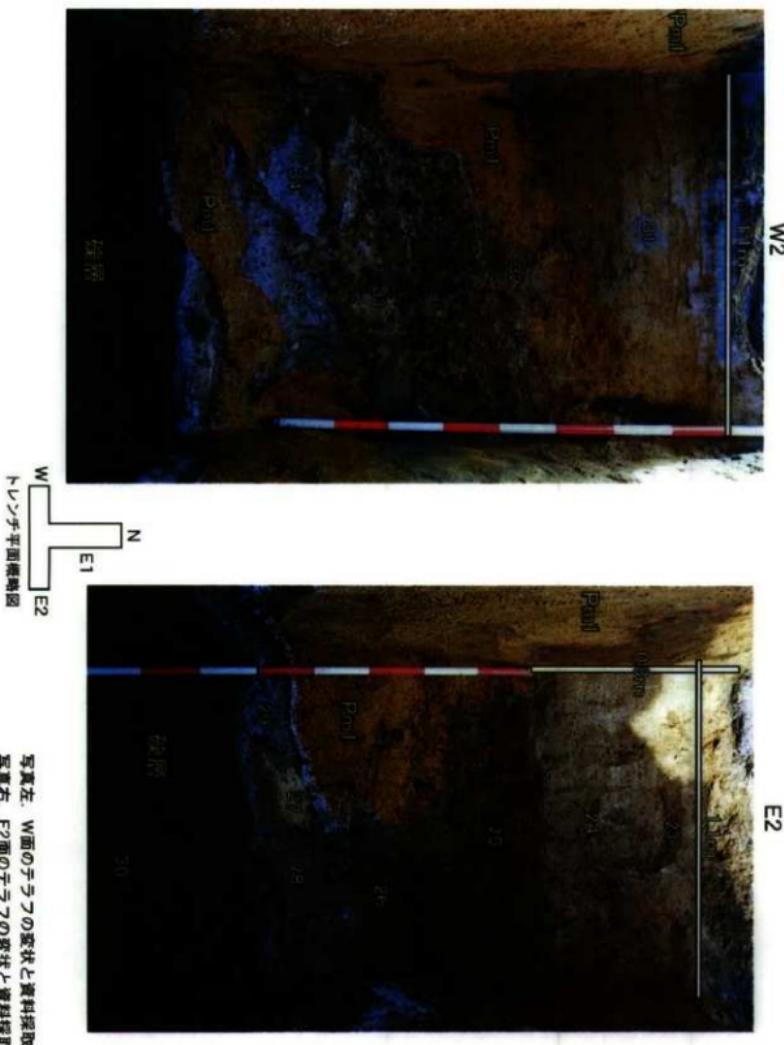


写真 1. 中非持遺跡調査地点の地質断面
(番号は第 2 図と表 1 に共通する)

図版9



図版10



報告書抄録

| ふりがな | なかひじちくさんいせき | | | | | | |
|-------------------|--|------------|-------------------|--------------------|--------------------------------------|---------------------|-------------------|
| 書名 | 中非持地区三遺跡 | | | | | | |
| 副書名 | 平成13年度県営圃場整備事業中非持地区工事 | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | | | | | | | |
| 編著者名 | (故)友野 良一・太田 保 | | | | | | |
| 編集機関 | 長谷村教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒396-0402 長野県上伊那郡長谷村大字溝口1188-1 TEL0265-98-2610 | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2002年3月31日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | 市町村 コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| なかひじ 中非持 | 長野県上伊那郡 長谷村大字非持 95-1ほか | 387 | 35° 48' 45" | 138° 05' 07" | | 3,859m ² | |
| けいとだ 垣外田 | 長野県上伊那郡 長谷村大字非持 470-1 | 387 | 35° 48' 31" | 138° 05' 10" | 2001.10.4 ↓ 2001.11.27 | 2,646m ² | 圃場整備事業に 伴う発掘調査 |
| しんめいづか 神明塚 | 長野県上伊那郡 長谷村大字非持 276-1 | 387 | 35° 48' 40" | 138° 05' 05" | | 579m ² | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 中非持 垣外田 神明塚 | 散布地 | 縄文時代 | 土坑 5基 | 縄文時代後晩期の土器 | 縄文後期末から晩期の 食物保存加工施設の一 部らしき物が検出 | | |

県営圓場整備事業中非持地区工事に伴う
埋蔵文化財緊急発掘報告書

中非持三遺跡

平成14年3月31日

上伊那地方事務所 伊那市大字伊那3497
TEL 0265-78-2111 (代)

発行 長谷村教育委員会 上伊那郡長谷村大字溝口1188-1
印 刷 玄 冬 社 TEL 0265-98-2009
伊那市伊那部野岸4806-3
TEL 0265-73-6205

